

【福井大学教育地域科学部ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

教育地域科学部は、子どもへの深い理解と子どもの主体的な学びを組織する専門的・実践的な力量を備えた学校教員の養成、ならびに、地域の特性と課題に対する関心と意欲をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる人材の養成を目的としています。この目的を達成するために策定された教育課程の方針と編成のもとで、修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した者に対して、学位を授与する。

【福井大学教育地域科学部カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）】

教育地域科学部は、学校教員の養成を目指す学校教育課程、ならびに、地域づくりの担い手の育成を目指す地域科学課程の二つの教育課程から構成される。学校教育課程にあつては、子どもの探究心、思考力および創造性を育み、地域と連携した教育環境を組織するための専門的能力を育成する。また、地域科学課程にあつては、地域社会の発展、地域文化の創造、ならびに、共生と自治の実現に貢献できる能力を身につけさせ、地域の諸課題を実践的に解決できる能力を育成する。

以上を実現するため、次のような両課程共通の特徴をもった教育課程を編成する。

1. 専門性と総合性を高めるためのバランスのとれた科目構成
2. 各専門領域における課題を探究する力および問題解決能力の修得
3. 各専門領域における実践的な能力の修得
4. 協働的な活動、学習を通して民主的に合意を形成する力の修得
5. 学習成果の共有による世代継承サイクルの構築

さらに、2つの課程別のカリキュラムに加えて、両課程をつなげた教育プログラムを編成し、地域の特性と課題を理解して住民参加型の学校づくりを実践できる教員、ならびに学校教育に理解をもち、地域づくりに貢献する人材の養成をめざす。

【学校教育課程学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

修業年限以上在学し、かつ教育課程編成の方針に基づいて編成された科目を共通教育規程及び教育地域科学部規程において定められた所定の単位数を修得することにより、教科や教職の専門的・実践的力量ならびに公教育の担い手としての自覚と責任感を備え、以下のような能力を身につけたと認められる者に対して学位を授与する。

1. 生涯にわたって学び続ける基盤

地域や学校における実践コミュニティの一員として、また学びの専門職として、グローバルな視点から地域に参画し、他者と協働し、生涯にわたって学び続ける基盤を有する。

2. 協働的な学習や問題解決的な学習の指導と評価

子どもたちが活動的で協働的な学習、また教科の特性に応じた問題解決的な学習を行うことができるように、教育の目的・目標・内容、及び子どもの発達や地域社会に関する知識に基づいて指導と評価の計画を立てることができる。

3. 教科における重要な概念と探究の方法に関する理解

子どもたちの知的・社会的・個性的な発達を支援するために、各教科・領域における重要な概念と固有の探究方法、及びそれらを子どもたちが学習していくプロセスに関して深い理解を有する。

4. 民主的な集団活動の運営方法と道徳的な指導

子どもたちが平和で民主的な社会のあり方と人間らしい生き方について理解を深められるように、集団活動の運営方法や道徳的な指導を行うことができる。

5. 子どもたちの個性に応じた成長と発達の支援

子どもたち一人ひとりの個性に応じた成長と発達を支援することができる。

6. 学識形成の足跡を示す学習成果の公開

上記 1 から 5 の能力を裏付けるために、学識が形成された足跡を示す学習成果をまとめて、公開することができる。

【学校教育課程教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

学校教育課程では、公教育の担い手として多様な人々と協働しながら、学識に支えられた指導力により子どもたちの学習・発達を支援し、生涯にわたって学び続ける教師を育てるために、以下のような特徴を有する教育課程を編成し、実施する。

1. 幅広い専門領域を担う教員組織と新しいカリキュラム開発

多様な教科内容、教科教育、教育学を専門とするスタッフが協働し、近年の重要課題を視野に入れた授業やカリキュラムを開発する。また、地域での実践を土台にグローバルな視点から学校教育のあり方について考えることを支援する。

2. 実践と省察をコアに持つ協働的な学習

子どもたちの成長と発達を促す実践への参加と省察を繰り返す、専門職的な学習経験をコアに据えて、各科目の学習内容を理解させる。初年次より教師に求められる専門職的な学習を積み重ね、1年生から4年生までの学生が協働して学習することにより、その学習が深められるよう支援する。

3. 教科の専門性を高めるバランスある科目配置

教科固有の内容と探究方法を、講義・演習・実験・実習・実技・卒業研究等を通して、バランスよく学習させる。また、教科が成立する根拠や意義、歴史的背景について理解を深め、教科の目的・目標・内容について考えさせる。各科目においては、カリキュラム・単元・授業・教材・活動の開発と提案・実践や、様々な記録に基づいた事例研究を行い、科目における学習内容を統合的に理解させる。

4. 学習成果に支えられた世代継承サイクル

学識形成の足跡を示す学びの履歴・成果をまとめることにより、先行の世代の経験から学び、後の世代に自身の経験を伝えるサイクルを組み込んだ学習コミュニティを育成する。

5. 専門職としての力量形成に資する評価

専門職としての教師の能力を多面的に評価するために、協働的な探究のプロセスやそこで育まれた能力を把握し、目標と学習そのものを問い直す学習個人誌を作成し、公開させる。

【地域科学課程学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

修業年限以上在学し、かつ、教育課程編成の方針に基づいて編成された科目を共通教育規程及び教育地域科学部規程において定められた所定の単位数修得することによって、以下のような関心、意欲、知識及び能力を身につけた者に対して、学位を授与する。

1. 国内外の地域の特性と課題に対する関心と意欲

一定の地理的空間において教育、文化、政治、経済、環境等の様々な要素が絡み合った複合的システムとして捉えられる「地域」について、その国内外の具体例が持っている特性と課題を解明し、実践的な活動を通して地域社会の発展や文化の創造に貢献することに高い関心を持ち、そのような貢献に向けて積極的に取り組む意欲を有する。

2. 実践的課題解決力

外国語、調査・データ分析、行政運営等に関する基礎的実践的なスキルを有し、適切な情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を用いてチームワークの中でリーダーシップを発揮しつつ課題の解決に取り組むことができる。

3. 多角的・学際的基礎知識と個別専門知識の修得

地域の特性と課題を多角的・学際的な視点から探求するための幅広い基礎的知識を有するとともに、各系で目標とされている次のような専門的知識と能力を有する。

【地域分析系】

地理学、社会学、生活経営学、情報技術、統計学等の専門知識を有し、社会調査法や統計分析を活用して地域社会や住民生活の諸課題を解明できる。

【公共政策系】

法学・政治学、経済学・経営学等の専門知識を有し、地域政策の立案・遂行や地域社会あるいは企業組織等の合理的・効果的運営に寄与できる基礎的能力を有する。

【環境マネジメント系】

環境マネジメント、生物学、環境科学等の専門知識を有し、様々な環境問題を理解する能力を持つ。

【生涯学習系】

社会教育学、博物館学、芸術学、心理学、生理学、運動学等の専門知識を有し、市民の生涯学習の企画・運営および支援に寄与することができる。

【国際文化系】

英米文化、ドイツ文化、フランス文化、中国文化等の専門知識を有し、複眼的視座から多様な価値観に根差した地域の文化的特性を理解することができる。

【言語コミュニケーション系】

英語、中国語を中心に言語やコミュニケーション等の専門知識を有し、英語、中国語の実践的運用能力を用いて、各地域の特性の解明や多文化共生社会に寄与することができる。

4. 変化が激しい時代状況に即した柔軟な思考力と課題対応力

多様な地域社会や文化のあり方について理解し、答えの得難い課題にも専門的知識・能力を生かして取り組むことができる。また、それを通じて地域間・文化間の共生や自治の実現等に貢献できる。

【地域科学課程教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

実践的力量のある学校教員及び地域の創造と発展に貢献できる人材を養成するとともに、教育科学や地域科学の学際的総合的な研究成果によって広く社会の発展に寄与するという本学部の教育研究上の目的・理念に基づき、地域の特性と課題について実践的な教育を行う。この基本方針の下に、以下のような特徴を有する教育課程を編成する。

1. 総合的専門性と個別専門知識獲得のためのバランスある科目配置

多岐にわたる地域の特性と課題を理解することにより、個別の研究テーマをより深く分析できる能力を身につけさせるため、地域課題ワークショップ科目、スキルアップ科目、地域科学基礎科目、専門科目のバランスある配置に留意したカリキュラム編成を行い、総合的専門性と個別専門知識の連動的・複合的な修得を可能にする。

2. 関心分野・課題の明確化

地域の特性と課題への問題意識と実践的な問題解決能力の基礎を培うため、1、2年次に、地域科学基礎科目、地域課題ワークショップⅠ及びⅡを履修させることにより、学生の関心分野・探求課題を明確にさせる。

3. 実践的スキルの修得

スキルアップ科目（英語コミュニケーション科目、調査・データ分析科目、行政運営基礎科目）を1、2年次において履修させることにより、高学年次における専門的な課題探求に欠かせない知的ツールを身につけさせるとともに、卒業後に様々な職場で必要とされる基礎的・実践的なスキルの修得を可能にする。

4. ワークショップ科目による課題探求・解決力の獲得

課題探求・解決のためのグループ・ワークと参加者全体での省察を行う「地域課題ワークショップ科目Ⅰ～Ⅳ」を各学年に段階的に配置し、専門科目の履修と連動させることにより、地域社会における様々な活動分野で求められる協働での課題探求・問題解決能力、情報収集・分析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の修得を可能にする。

5. 多面的履修と研究テーマの深化

2年次後期以降は6つの専門分野（系）のいずれかに所属させる。それと同時に、個々の学生の探求課題に即して他の系の専門科目も併せて履修することを可能にし、そのような多面的履修を含む各系における学習の成果を卒業研究へと結実させる。

6. グローバルな視野を有する高度専門職業人として備えるべき能力の育成

地域社会の発展、地域文化の創造、ならびに、共生と自治の実現に貢献できる能力を身につけさせるという教育課程の中で、国際的な交流を視野にいれた高度専門職業人として、地域社会の発展や地域文化の創造をグローバルな視野により捉え得るように配慮する。特に、人間としての自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う倫理的、社会的能力の修得を可能にする。